

第 14 回 塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ

日 時	令和 8 年（2026 年）7 月 14 日（火） 午後 5 時 30 分から午後 7 時まで		
場 所	塩尻総合文化センター 講堂		
出 席 （敬称略、 ◎座長）	石坂 健一、◎佐倉 俊、大池 昌弘、百瀬 司郎、小林 敏一、横山 暁一、草間 英樹（代理）、赤羽 誠治 霜田 美奈、宮原 信貴、鍋島 順司、田中 信宇、吉越 秀之、高坂 由美子、永田 寛尚、小松 大斗、大澤 寧々 滝澤 陽向、藤田 美蕾、吉田 武紗土、長谷川 香穂、堀内 雅司、今井 直哉、青木 裕士、笠原 勇貴 以上 25 名		
欠 席 （敬称略）	小松 稔、林 修一、渡邊 修、中島 紀彦 以上 4 名	傍 聴	8 名、報道 2 社
事務局	塩尻志学館高校：木下教頭（事務局長）、今井教諭、跡部教諭、鈴木教諭 田川高校：内川教頭（副事務局長）、笠原教諭、代田教諭 県教育委員会：（高校再編推進室）田中主幹指導主事、荻原主任指導主事、宮嶋主任指導主事、宮澤主事 （学びの改革支援課）宮坂指導主事		
会議事項	(1) 第 13 回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ (2) 「学び×空間」ワークショップまとめ (3) 施設整備プロポーザルに向けて (4) 統合に向けた両校の取り組み状況と今後の方向性について (5) その他		
当日資料	第 14 回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会資料		

主な内容（⇒：事務局回答 / →：県教委回答 / ⇔：生徒回答 / ●：座長まとめ）

- (1) 第 13 回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ（質問、意見なし）
- (2) 「学び×空間」ワークショップまとめ
- ・第 13 回懇話会で行われたワークショップの意見を基に、総合学科ならではの「学び」とそれを支える「空間」について、テキストマイニングの手法を用いたキーワードの可視化及び分析結果の報告。
 - ・分析結果を踏まえた内容の 6 つの観点による整理。
 - ・新校の目指す方向性として、「学び」と「空間」を一体的に設計していくことの重要性を確認。
（質問・意見なし）
- (3) 施設整備プロポーザルに向けて
- ・NSD プロジェクトを実施する施設整備プロポーザルの概要説明（応募者の提案力や業務遂行能力を評価し、基本計画策定のための最適候補者を選定することを目的としたもの）。
 - ・応募者に求める提案条件（配置計画及び建築計画）、改築・改修対象範囲及びスケジュール案を提示。
 - ・設計パートナー決定後、生徒や教職員及び地域住民等を対象としたワークショップやヒアリングを実施しながら最適な建築計画を策定していくことを確認。
- 【質疑応答】
- 具体的にどのような方法で生徒や教職員、地域と意見交換を行っていくのか。
→設計パートナーとの契約後、ワークショップを複数回実施し、幅広く意見を聴取しながら基本計画を策定する予定。
- ワークショップのメンバーはどのように決定するのか。また、人数制限などはあるのか。
→他の新校整備事例では、会場や内容に応じて人数制限を設けた事例もある。開催については、都度案内を行う予定なので積極的な参加をお願いしたい。
- これまでも「地域」という言葉が多く出てきている。地域の方々の意見や思いをワークショップの中で十分に汲み上げてほしい。
- 配置計画に「地域に開かれた学校、つながりのある空間」とある。地域連携協働室のような施設が想定されるが、場所を設けるだけでは日常的な交流は生まれにくい。懇話会当初から「地域」が重要なキーワードとなっているため、地域、企業、大学等が日常的に学びに関わることができる仕組みについて、要件として明記してほしい。
→意見を踏まえ、内容を検討していきたい。
- (4) 統合に向けた両校の取組状況と今後の方向性について（両校校長が説明）
- <塩尻志学館高校（概要）>
- ・2000 年の創立当初に示された総合学科の理念やコンセプトを現在も大切にしている。
 - ・総合学科の柱として、「キャリア教育」「探究学習」「科目選択」「多様な進路」の 4 点が挙げられる。
 - ・科目選択に当たっては、キャリア教育を通じて将来の進路や興味・関心を考えながら選択することを重視している。
 - ・本校では 2 年次に 16 単位、3 年次に 24 単位を自由選択科目として設定している。
 - ・ワイン製造は 80 年以上続く特色ある取組である一方、醸造量や品質の維持・継承については、生徒数や教員配置などの

課題もある。

- ・生徒のニーズに応えるため、令和9年度から情報メディア系列を新設する予定である。
- ・総合学科として幅広い科目選択を維持するためにも、適正な学校規模を確保できるよう努めていく。

【質疑応答】

○2、3年合同授業とは具体的にどのような授業を行っているのか。

⇒商業科目の「ビジネスコミュニケーション」では、秘書検定の取得に向けて学習している。

⇒商業科目の「簿記」では、簿記検定の取得に向けて学習している。

⇒社会科目の「時事問題」では、社会的課題について600字以内の小論文を作成する取組を行っている。

○特色ある取組については理解できたが、卒業後にどのような人材を輩出し、どのような分野で活躍しているのか。また、今後の人材育成の見通しについても教えてほしい。

⇒就職者は卒業生の約1割であり、ワイナリーなどへ就職する生徒もいる。専門的に学んだことを将来に生かそうと努力している生徒もいるが、進学先や就職先のさらに先まで継続的に把握できていない部分もある。

○本来、学校教育は将来の目的を見据えて学びを設計しているものである。卒業後、社会でどのように活躍しているかまで把握することで、初めて志学館高校の取組を適切に評価できるのではないかと感じている。

＜田川高校（概要）＞

- ・生徒育成方針や在籍生徒の状況、卒業後の進路、学校生活の様子について説明。
- ・現在の課題は志願者の減少、基礎学力の定着、クラブ活動加入率の低下、探究的な学びの充実。
- ・今後、キャリア教育及び探究的な学びのさらなる充実に向けたカリキュラム編成を検討。
- ・統合に向けた取組案として、部活動の合同チーム化、両校共通科目の実施、教職員の兼務などを検討。
- ・統合までの7年間で実施可能なことには積極的に取組んでいく考えであり、地域からの支援と協力をお願いしたい。

【質疑応答】

○新聞記事にも掲載されていた文化祭合同イベントについて、高校生の感想を聞きたい。

⇒今年度初めて、塩尻志学館高校、田川高校、東京都市大学塩尻高校の3校合同による学校PRを実施した。松本市内4校による合同PRを参考に、4月から何度も話し合いを重ねて準備を進めた。準備は大変だったが、その分やりがいを感じており、次年度につなげていきたい。

⇒準備は大変だったが、塩尻志学館高校や東京都市大学塩尻高校の発表を見ることで、それぞれの学校の生徒の雰囲気を感じることができ、大変良い機会となった。

●座長まとめ

- ・統合が決定している中で、高校生自身による取組の実践報告を通じて、今後どのような視点を大切にしていけるべきかを共有することができた。今後も様々な場面で協働できる機会があれば、積極的に挑戦してほしい。

(5) その他 （特になし）

その他

- ・今回より、懇話会のまとめを次回開催前にホームページへ掲載。まとめ（案）の作成後、メールにて構成員へ送付し、内容確認及び了承を得た上でホームページへ掲載する予定。

【次回懇話会】

- ・期日：令和9年1月中旬から下旬
- ・議題：設計者による提案書の説明 他
日程調整が済み次第、開催通知にてお知らせする。